

[別紙 2]

審査の結果の要旨

氏名 Boonterm Saengdidtha

本研究は、タイ王国において公衆衛生上の主要な問題疾患の一つである HIV/AIDS 感染に対するタイ軍新規徴募兵におけるハイリスク集団を同定するための危険因子評価尺度の開発を目的とし、量的手法を用いて研究したものである。具体的には、HIV 陽性および HIV 陰性の各 240 名の徴募兵について、人口統計学的特性、薬物常用習慣、性行動、HIV/AIDS に関する知識と態度、コンドームに関する知識と態度・実践、社会心理学的特性について自記式質問票を用いてデータを収集した後、解析したものである。結果は下記の通りであった。

1. 両群間における統計学的に有意な危険因子は、都会での居住、肉体労働者、月収 2000 バーツ以上、学歴が中等教育以下、喫煙、飲酒、マリファナ、アンタフェミン、ヘロイン使用、性交前の飲酒、性交前の薬物使用、IDU、注射の回し射ち、初めての性交が買春、性交パートナーが 3 人以上、肛門性交の経験、性病の既往、HIV に対する低い危険認識、高速運転の嗜好、パートナーと安全な性交に関する会話がなされていない、HIV に無関心、の各項目であった。
2. 多重ロジスティック回帰分析より得られた HIV 陽性の予測因子は、月収 2000 バーツ以上、ヘロイン使用、性交前の薬物使用、初めての性交が買春、HIV に対する危険認識が低い、HIV に無関心の 6 項目であった。
3. 新たに開発した危険因子評価尺度の適切な分割点は 3.5 以上であり、感度は 83.5%、特異度は 36.9%であった。

以上、本論文は、本研究で開発された危険因子スケールが HIV 感染のリスクの高い集団を同定し、リスクを軽減させる教育やカウンセリングおよび HIV 検査を行うためのスクリーニングに使用されうるものであることを証明した。また、本研究手法は HIV/AIDS が流行している他の発展途上国に対しても適用が期待され、各国の HIV/AIDS 対策に重要な貢献をなすものであり、学位の授与に値するものと考えられる。